

# 売上低迷期の中、収益悪化が目立つ

## 2月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

売上低迷期の2月を迎える中、原油価格の上昇や親企業によるコストダウン要請、競争激化等が収益を圧迫している。また、人手不足感が続く中、人件費負担増に苦慮する一方で、廃業も散見される。

製造業	食料品		パンは残業時間の規制強化や時間給上昇等による、人件費上昇を懸念している。製麺は例年以上に荷動きが鈍く、業務用では大手の冷凍麺にシフトする動きが加速している。食肉は大口の生産農家の生産数減少で、と畜頭数が減少している。
	繊維・同製品		桐生織物は輸出向けが低調の中、夏物和装の売上に期待している。ニットは秋冬用のサンプル作成に取組むも、昨年から続く売上不振と収益悪化を懸念している。伊勢崎織物は和装織物の装飾品が人気となる反面、反物の売上は低調である。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは受注低迷の中、今後の見通しに不透明感が漂う。コンクリート製品は原材料・原油価格が上昇するも、競争激化で価格転嫁は困難な状況である。砕石は景況感の悪化に歯止めがかからず苦戦が続く。
	機械・金属		米国の政策動向を引き続き注視する中、比較的堅調に推移するも、原材料価格上昇やコストダウン要請、人手不足による人件費増で収益が悪化している。鍍金は親企業の生産拠点の海外移転により、下請中小企業は大きな打撃を受けている。
	その他の製造業		紙加工品は海外の旺盛な古紙需要により、品薄感が高まり国内の古紙価格が上昇している。印刷は売上が減少する中、一部の企業では新たな受注獲得を目指し、今後に期待している。ゴムは原油価格の上昇等による原材料高に苦慮している。
非製造業	卸売業		高崎卸は恒例の「問屋街わけあり処分市」を開催し、来場者は3千人超で盛況となった。前橋卸は道路整備による交通量増加で事故が多発し、対策を検討している。タイヤ卸は安価な海外製品の流入で販売価格が下落し利益が減少している。
	小売業		燃料小売は元売子会社のセルフ給油所の安値販売が、地場の給油所の経営を圧迫している。生花小売は業界が推進する「フラワーバレンタイン」の浸透に苦戦し低迷している。商店街は寒気や降雪等の影響で客足が伸び悩み売上減となる。
	サービス業		温泉旅館は、春節等で外国人客が増加し、十分な積雪でスキー客も前年比増となる。不動産取引は藤岡市域において、アパート経営者が柔軟な対応で空室対策を行うも、中心市街地では住宅用・事業用ともに需要が低迷している。
	建設業		建設工事は来年度からの公共工事設計労務単価の引き上げで、明るい兆しが見られるも、依然として公共工事の受注量は減少傾向にある。電気工事は後継者不足による零細企業の廃業が相次ぐ。鉄構は工期・工程の遅れが常態化している。
	運輸業		荷動きが低調の中、高速道路利用の増加や燃料価格の上昇等で経費負担が増している。自動車関係は就職シーズンに向けた増産傾向で好調となる。小型運送はネット通販の翌日配送サービスの影響で宅配依頼が増加傾向にある。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 107.0(前月比▲7.7%)「県統計課・1月」
- 住宅着工戸数 1,053戸(前年同月比+3.8%)「県建築住宅課・1月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.41倍:有効1.57倍「群馬労働局・1月」
- 大型小売店販売額 210億円(前年同月比+2.2%)「経済産業省・1月」
- 消費者物価指数(全国) 100.0(前年同月比+0.4%)「総務省統計局・1月」  
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)